

環境〈E〉

気候変動・資源循環等に関する「リスク」と「機会」

気候変動・資源循環等に関する「リスク」と「機会」を重要な経営課題と認識しています。異常気象の深刻化や降雨パターンの変動、渇水や洪水による経済、生産活動への影響など、財務的かつ社会全体やサプライヤーへのリスクに対し、法規制や動向を踏まえ、グローバルな視点で対応強化を図っています。

	リスク	機会
気候変動	HP[TCFDシナリオ分析結果]を参照ください。 https://www.toyoda-gosei.co.jp/csr/environmental/report12/	
資源循環	水不足、水害による生産活動への影響	水の再利用、使用量削減によるコスト低減
	材料調達難、材料価格の高騰によるコスト増加	リサイクル技術、材料使用量の減少によるコスト低減
マネジメント（法規制順守）	法違反などの環境問題、環境保全に対する取り組み不足から生じる企業の信頼失墜	環境活動の強化によるブランド力の向上
生物多様性	・自然資源などの減少による原材料の価格上昇 ・水質悪化による製品品質悪化	・自然保護による人材、原材料確保による事業継続 ・里山整備、河川保全などによる良質の水源確保

事業活動における資源投入と環境排出

エネルギー、材料などの投入資源を少なくし、製品としてのアウトプットの極大化を図るために、商品開発力、工法開発力、現場の改善力を活かし、事業活動を通じた改善に取り

組んでいます。
また、投入資源も、環境に配慮した材料、クリーンエネルギーを活用しています。

INPUT

総物質投入量	39,248t	ゴム（練生地）	13,335t
樹脂	25,913t	購入部品、金属、液体は除く	
総エネルギー投入量	226.1万GJ ^{※1}	重油	0.5万GJ
購入電力	147万GJ	灯油	0GJ
再生可能エネルギー電力	1.9万GJ	LNG	11.0万GJ
都市ガス	65万GJ	ガソリン	0.1万GJ
LPG	0.1万GJ		
水資源投入量	114万㎡	上水	18.9万㎡
工業用水	64.1万㎡	地下水	31.1万㎡
PRTR ^{※2} 対象物質使用量	525t		

※1 ギガジュール(1,000,000,000J)
※2 Pollutant Release and Transfer Register（環境汚染物質排出・移動登録制度）
※3 硫酸酸化物
※4 窒素酸化物
※5 Volatile Organic Compounds（揮発性有機化合物）
※6 対象範囲：春日・稲沢・平和町・瀬戸の4工場、北島技術センター、美和技術センター、サンコート井之口

OUTPUT

製品			
大気への排出		NOx ^{※4}	92t
CO ₂	9.3万t-CO ₂	ばいじん	0t
6ガス	0.2万t-CO ₂	PRTR対象物質排出量	77t
SOx ^{※3}	0t	VOC ^{※5} 排出量	230t
廃棄物などの排出		産業廃棄物・一般廃棄物量	5,927t
埋立廃棄物量	0t	有価物量	6,032t
焼却廃棄物量	1t	PRTR対象物質移動量	41t
排水		窒素排出量 ^{※6}	8.8t
総排水量	87万㎡	リン排出量 ^{※6}	0.6t
PRTR対象物質排出量	0.1t	COD排出量 ^{※6}	4.3t

バリューチェーンにおける環境負荷

地球環境保全の観点から、自社の事業活動におけるGHG排出量（Scope1^{※7}、Scope2^{※8}）だけでなく、原材料の採掘、製品の使用、廃棄なども含んだバリューチェーン全体の排出量（Scope3^{※9}）も把握し公開しています。なお、2021年度からカーボンニュートラル促進プロジェクトを発足させScope3の精度向上を進めるとともに、カーボンニュートラルに向けた2030年マイルストーンの設定、シナリオ作りを進めています。

※7 企業自身が直接排出した温室効果ガス排出量（化石燃料・天然ガスなど）
※8 間接的に排出した温室効果ガス排出量（購入電力など）
※9 企業が間接的に排出するサプライチェーンでの温室効果ガス排出量（原材料製造、輸送、出張、通勤など）

Scope別CO₂排出量

